

# 今、何の病気が流行しているか！

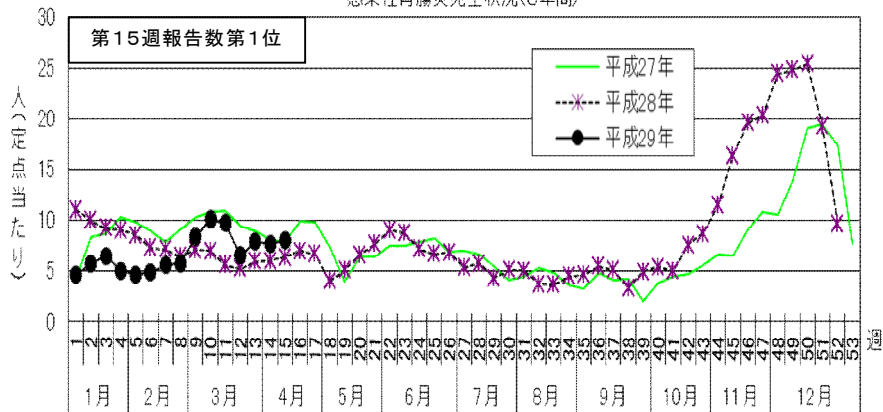
【感染症発生動向調査事業から】

平成29年4月10日（月）～平成29年4月16日（日）〔平成29年第15週〕の感染症発生状況

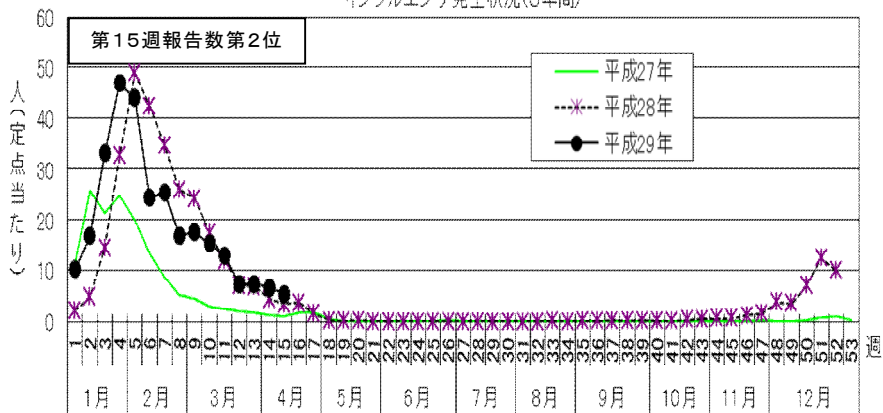
第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.97人と前週（7.66人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は5.47人と前週（6.63人）から減少し、例年よりやや高いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.66人と前週（1.71人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)



## RSウイルス感染症の報告数がやや増えています！

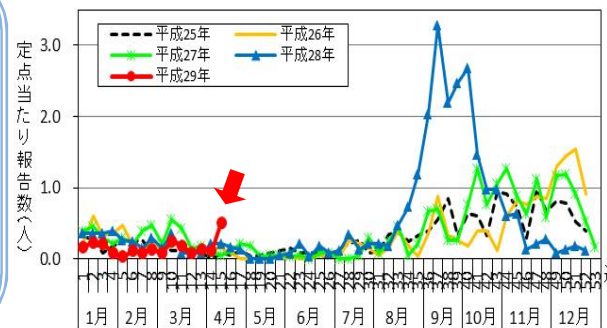
我が国においては、RSウイルス感染症は、主に2歳未満の乳幼児を中心に冬季に流行する呼吸器感染症です。

川崎市では、平成29年第15週（4月10日～4月16日）の定点当たり報告数が0.51人と、過去5年間平均（0.14人）に比べて多くなっており、特に高津区、宮前区、多摩区で増加がみられます。

### RSウイルス感染症の特徴

- 感染経路:** 咳や鼻水等による飛沫・接触感染
- 潜伏期間:** 2～8日（典型的には4～6日）
- 症状:** 発熱、咳、鼻水等の風邪様症状が数日続きます。多くは軽症ですが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難等の症状が出て、細気管支炎、肺炎へと進展するお子さんもいます。

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況(5年間)



～こんなお子さんは特に注意！！～

基礎疾患を有する小児（特に早産児や生後24か月以下で心臓や肺に基礎疾患がある小児、神経・筋疾患あるいは免疫不全の基礎疾患を有する小児等）や、生後3か月以内の乳児への感染は重症化のリスクが高いため特に注意が必要です。